

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年3月1日発行（毎月一回発行）第698号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

小山神学との出会い 宮本 新

本・批評と紹介

鈴木崇巨 著
日々の祈り 吉村和雄

丸山忠孝 著
カルヴァンの宗教改革教会論 出村 彰

八谷俊久 著
逆説から歴史へ 佐藤司郎

大野恵正 著
旧約聖書入門2 小友 聡

渡辺兵衛 著
あなたがたは地の塩である 関田寛雄

フランシスコ日本管区 訳・監修

アシジの聖フランシスコ伝記資料集
神崎忠昭

メランヒトン 著/ルター研究所 訳
アウグスブルク信仰告白 竹原創一

本屋さんが選んだお勧めの本

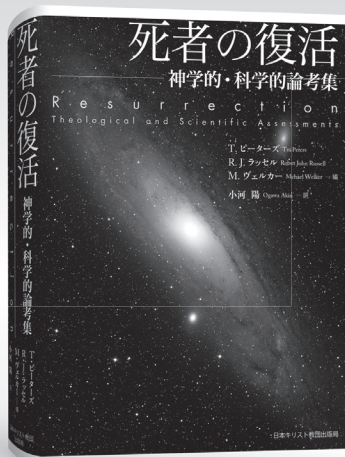
近刊情報

書店案内

3 MARCH
2016



「からだの甦り」とはということか、実現の可能性と想定されうる実態



死者の復活

神学的・科学的論考集

T. ピーターズ / R. J. ラッセル /
M. ヴェルカー 編 小河 陽 訳

キリスト教信仰の根幹である「死者の復活」。その実現の可能性と想定されうる実態を、神学、宗教学、自然科学、工学など、多彩な学問領域の研究者18名が考究する。キリスト教神学と自然科学とを対話させる創造的相互交流の試み。 ◆A5判 上製・442頁・6,048円

宇宙物理学

科学が予告する宇宙の終末と
神学的終末論の関係は？

神学・聖書学

パウロ、ルカ、教父、シュライエルマツハーは
復活をどのように想定していたか？

新約聖書解釈の手引き

浅野淳博 / 伊東寿泰 / 須藤伊知郎 / 辻 学
中野 実 / 廣石 望 / 前川 裕 / 村山由美

日本を代表する聖書学者が、聖書を読むための方法論を初學者向けに概説し、その方法を用いて聖書を読むと「何がわかるか」を紹介する。◆A5判 上製・338頁・3,456円



本書の内容を具体的に紹介するイベントを開催！「そうなのか!」という発見が必ずあります!

シンポジウム 新約聖書の読み方

日時

2016年3月5日(土)
10時~12時 入場無料

会場

日本聖書神学校 202教室
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-14-16
JR山手線「目白駅」より
徒歩約10分

詳細はWEBで

出席者

浅野淳博、伊東寿泰、須藤伊知郎
辻 学、中野 実



申込み / 日本キリスト教団出版局 出版第一課

■Eメール/shoseki2@bp.uccj.or.jp ■TEL/03-3204-0424 ■FAX/03-3204-0457



出会い・本・人

小山神学との出会い——宮本新

神学をしていると意図せず何度でも立ち現れてくる神学者がいる。私にとつて Kosuke Koyama（小山晃佑）とはそのような神学者である。二〇〇四年、シカゴのルーテル神学校の博士課程に入学して間もなく、図書館でジョージというインド人に声をかけられた。「カガワ、コヤマ、キタモリ。あまり日本では読まれていないそうじゃないか。本当に不思議なことだ。僕は今読んでるよ。今のインドで読まれるべきテキストだからね」。間もなくして賀川豊彦、北森嘉蔵、小山晃佑といった神学者の著作は幅広く世界中で読まれ続けていることが分かった。「今読まれるべきテキスト」とジョージが言ったのはトレンドのことでなく、異時代に耐えうるもの、あるいは時代の精査を受ける（にたる）テキストだと言っていたのだと思う。

Koyamaの英文著作は多くまたその研究書もある。私の場合、『アジア神学講義』（森本あんり著、二〇〇四年、創文社）を再三読みながらアジア神学の脈絡で日本の神学テキストを読むレッスンを受けたように思う。しかし Koyama の邦文邦訳は未だ多くはない。数年前、『水牛神学』（教文館）に並ぶ代表作『富士山とシナイ山』を講義で取り上げようと探して見つけたのはアマゾンのキンドル版であった。小山神学が次代に継がれていくよううれしかった。

筆者はしばらく前に『もうひとつの十字架の神学』（リトン）を翻訳出版したが、著者マーク・トムセン氏もまた Koyama と交流のあった神学者であった。共に神学に「対話」を取り込んだバ イオニアであり、思い出話を幾度かお聞きしたことがあった。森本あんり先生がご指摘のとおり、小山神学は組織神学的ではなく、「まずもって発見的で開拓的」である。洋の東西を横断して小山神学は多くの出会いをもたらしている。

私には「小山先生」とお呼びする機会が一度だけあった。指導教授の勧めで小山先生に論文指導を受けるため、ミネソタのご自宅に電話したのである。振り返るに唐突な電話でご迷惑だったに違いないが、「コースワークが終ったら、一緒に学びましょう」とおっしゃってくださった。法外な喜びとし、その後の励みになった。残念ながらその後、小山先生の体調はすぐれず二〇〇九年に逝去された。直接お目にかかる希望はかなわなかった。しかしこれからも小山神学が行く手に再び立ち現れる予感はある。小山神学はこんにちの日本や世界にもながしかを伝え、次の時代とも対話を呼びかける神学でもあると思うからだ。

（みやもと・あらた 日本福音ルーテル田園調布教会牧師、日本ルーテル神学校講師）

編集部注・本文中の『富士山とシナイ山』は、二〇一四年、教文館より刊行

新しい言葉で神に語りかける
鈴木崇巨著

日々の祈り
手引きと例文



吉村和雄

祈りは、信仰者にとって不可欠のものです。よく、み言葉は霊的な食べ物であり、祈りは呼吸であると言われます。呼吸しなければ人は死んでしまいます。祈りがなければ、信仰生活は死んだものです。それ故に、祈りの生活をどのように作り上げていくか、祈りの言葉をどのように整えていくか、それはわたしたち信仰者にとって極めて重要な問題です。

しかしながらこういうことは、信仰者であれば誰でも知っていることで、改めて言われるまでもないことです。誰もが祈りの重要性を知っています。知っていないながら、つい祈ることを怠ってしまい、それが数日に渡り、数週間に及ぶことがあるのです。そのことに心を痛めながら、そこから抜け出す道を見出せないでいる人も少なくないでしょう。祈りの生活においてこそ、何らかの手引きが必要なのです。

祈りは二番目の言葉です。特に日本人にとって、このことを弁えていることは重要です。多くの日本人は、自分の中に「祈り心」というものがある、そこから発せられる言葉が祈りだと、無意識の内に考えています。ですから祈ることがあっても、

それが誰に向かって祈る祈りなのかを厳しく問いません。祈りの根拠が自分の中にあるからです。

しかし、わたしたちの祈りは、そのようなものではありません。祈りの根拠は、それを聞いてくださる方にあります。誰も聞いていない祈りは、ただのひとり言です。そしてわたしたちの神は、祈りを聞いてくださるだけではなく、それを求めてくださるのです。マタイによる福音書の第六章で、主イエスが弟子たちに祈りを教えてくださった時に、主は「神」という言葉をお用いになりませんでした。すべて「あなたの父」「あなたがたの父」と言い換えておられます。神が父としての心をもつて、わたしたちの祈りを待っておられることこそが、わたしたちの祈りの根拠であることを、お示しになったのです。

ですから鈴木崇巨牧師が書かれたこの本において、「聖書から教えられる神を中心にした祈りを考えて書かれて」(三頁)いると、最初に明らかにされていることは、重要です。さらに、人間は自分を中心にするので、祈願の祈りが中心になりがちだ、という言葉も、わたしたちの祈りの問題点を言い当てています。

そのような祈りを続けているので、同じような祈りの繰り返しになり、また特別な願いがなければ、祈りを怠ることになるのです。だからこそ本書においては「あなたが自分の両親に語るように、なんのてらいもなく、自由に神に話しかけることを、神は待っておられます」(八頁)と言われるのです。神を父として、もっと自由に、豊かな語りかけをすることによって、神の子としてのわたしたちの姿勢も、また確かなものになるのです。

本書においては著者の祈りの言葉が、手引きとして多く紹介されています。幼い子どもが、親から言葉を学ぶと同時に、兄や姉からも言葉を学んでいくように、信仰の先達から、祈りの言葉を学ぶことも重要です。新しい言葉で語りかけた時に、天の父との間に新しい関係が生まれるからです。わたしたちは旧約聖書の詩編を「祈りの学校」と呼び、その言葉から多くのことを学ぶのですが、それとは別に、同じ時代に同じ国で生きる

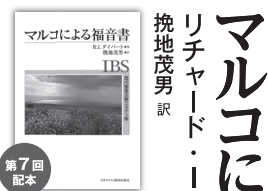
著者の祈りの言葉から学ぶことも、少なくないでしょう。

手引きの最後に、祈りにおける父なる神とキリストの関係について著者は、キリストを「お父さんの膝の上にいる子供」(一〇頁)と言います。わたしたちの祈りは一体となった両者に向けられると言います。一歩踏み込んだ表現だと感じました。神の右におられて、わたしたちの祈りを執り成してくださる方としてキリストを描いてもよかつたのでは、と思いますが、そういうことを承知した上での発言であるかも知れません。

(よしむら・かずお 単立・キリスト用品用教会牧師
(四六判・一九六頁・本体一五〇〇円+税・教文館)

教会の聖書研究に最適なシリーズ
10回の学びでマルコを読了!

現代聖書注解スタディ版 IBS
Interpretation Bible Studies



マルコによる福音書

リチャード・イー・ダイバート
挽地茂男 訳

マルコ福音書を読むことは
イエスに出会うこと。10の
単元でマルコ福音書を読み
解き、現代の読者をこの出
会いの驚きと喜びへ招く。
A5判・224頁・2808円

シリーズ案内

- ▶10の単元で構成され、個人だけでなくグループの学びにも最適
- ▶釈義の枠にとどまらず、読み物として面白い
- ▶コラムや語句説明、参考文献案内が充実、単元ごとに自分自身にひきつけて考えるための問いを収録

シリーズ好評発売中

- 創世記 2,484円
C.B.シンクレア 小友 聡 訳
- 出エジプト記 2,592円
J.D.ニューサム 大串 肇 訳
- 詩編 2,484円
J.F.D.クリーチ 飯 謙 訳
- エレミヤ書 2,376円
R.R.ラハ Jr. 深津容伸 訳
- マタイによる福音書 2,592円
A.M.マッケンジー 宮本あかり 訳
- ルカによる福音書 2,592円
T.W.ウォーカー 住谷 眞 訳

シリーズ続刊

- ヨハネによる福音書
M.A.マットソン 高砂民宣 訳

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigy@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-uccj.jp

カルヴァンの教会論の深化と展開を読み解く

丸山忠孝著

カルヴァンの宗教改革教会論
教理史研究

出村 彰

かねて企画中の『宗教改革著作集10 カルヴァンとその周辺Ⅱ』（教文館）に本邦未紹介のベザを収載すべく、東久留米の丸山宅を訪ね、快諾を得たのは何年前のことだったろうか。幸いカルヴァンⅡは予定どおり一九九三年に刊行を見た。

それから以後、丸山氏は現・東京基督教大学を立ち上げ、構成員すべてがキリスト者で、今では大学院後期課程まで備えた教育機関にまで拡充するのに多忙で、専門のカルヴァン研究にまではなかなか手が及ばないだろう、などと憶測した愚昧さを、本書を手にして評者は深く恥じるほかない。あえて付言すれば、別著『キリスト教会2000年』（いのちのことは社、一九八五年）は、世紀ごとにおつ切りにする独自の手法で、実は、評者も『総説 キリスト教史Ⅰ』（日本キリスト教団出版局、二〇〇七年）の中世キリスト教史でそのひそみに気づいてみたが、賛否両論で、歴史記述の難しさを感じたものだった。

長い「沈黙」を吹き飛ばすかのごとく、本文・四〇〇頁、注・一〇〇頁の大著としてこの度出版されたのが本書である。しかも、副題として「教理史研究」とある。かつては、各神学

校のカリキュラムでも、歴史分野は大まかに教会史と教理史とに大別されていたものだが、評者自身としては、この種の区分に早くから疑問を抱かせられていた。カルヴァン研究についてだけ言っても、ここ数世代の趨勢は顕著な「神学離れ」（二四頁）で、これまで未知の手写稿の発見・解説・公刊、ひいては『宗教改革者全集』の更改にまで及んでいる。そこからは、いわばかつては剝製だったカルヴァン像が、「活け造り」へと大きく変えられた。その貢献の大きさについては言うまでもない。しかし、著者はそのカルヴァンが懐き、育て、実現を目指した教会のあるべき姿を、しかもここ半世紀以上の主要なカルヴァン研究文献との対決をとおして、本書において描きだそうとする。渾身の力作と呼ぶにふさわしいだろう。

全体は四つに分けられる。その意味では、カルヴァンの個人史を史学的に追うことにもなるだろう。「学的形成と公同的教会論」、「初期ジュネーヴ宗教改革と公同的教会論の実践」、「シユトラスブルク期と新教会論に向けての転換」、最後に「改革派教会論と宗教改革教会論」がそれである。無論、本稿のよう

な短文ですべてに言及する不可能性は言うまでもないので、ここでは評者自身の半世紀前の、ある意味では近接した主題の著作との対比によって、評者の不明と今に至る学的怠惰を恥じる形で、本書から学ぶことの大きさの例示としたい。

例えば、一五三六年から僅か三年足らずの第一回ジュネーヴ在任期間、その間に産み出された三文書（邦訳『信仰の手引き』、全市民が表明を求められた『信仰告白』、および『教会規定』）、その執筆者、ことに先覚者ファレルの貢献度などについてである。著者は『信仰の手引き』は既刊の初版『キリスト教綱要』の圧縮版としてカルヴァン執筆を認めるが、残りはいむしろファレルへの依存を主張する。そうなれば、いかに初期段階であろうと教会の統治機構の鍵としての長老制（最終的には四重職制）の導入提唱はどうなるのか。評者は旧著で、その萌芽をつい直前まで在任したバーゼルと、その指導者エコランパーデウスからこうもつた影響を強調しようとしたが、それ以後のファレル研究の伸展、一次資料の公刊などは予測すべくもなかったは当然である。いわんや、さらにその先に再洗礼派の「触媒的」影響を持ち出すときは論外となる。学問の世界の常としても、評者の旧著は完全に乗り越えられた、と容認せざるをえない。逆に、シユトラスブルク時代の重視は、「ジュネーヴに戻ったカルヴァンは別人だった」という言い方の受容とも連なる。

評者がかつとも衝撃を受けたのは、邦訳もある『綱要』初版から、最終版に至るまでの改訂版、第三版の精緻な対比によって、最終版のように篇・章・節構成にまでは至っていないとしても、第三版における改訂加筆の重要性の強調である。類書が皆無ではないとしても、原資料の入手難、いわんやその解説力を思えば、著者の次の貢献がこの方面に向けられても不思議ではない。評者の切願とでも言おうか。

半世紀を越える学的蓄積を一挙に吐き出したごとき本書の著者、および出版社の刊行実務担当者に謝意と敬意を表したい。併せて、著者自身が本来目指した改革派教会、さらには宗教改革全体の教会論という本丸へはおろか、外堀さえも渡渉できな

いでしまったこの粗稿をご寛恕願いたい。

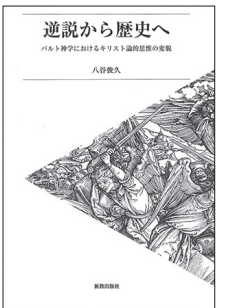
最後に一言すれば、評者の再読、三読あるいは四読の途中で、幾度も注に戻ろうと試みたが、その度にかんがりの手間と時間を必要とした。各頁下部にでも、本文との関わりを指示する方はなかったのだろうか、「ないものねだり」でなければよいが。

（でむら・あきら＝東北学院大学名誉教授）

（A5判・五三四頁・本体四八〇〇円＋税・教文館）

精緻な分析による新たな知見
八谷俊久著

逆説から歴史へ バルト神学におけるキリスト論的思惟の変貌



佐藤司郎

このところカール・バルトの研究書が、しかも本格的な研究書が日本で相次いで出版されている。今年生誕一三〇年、二〇一八年に没五〇年を迎えるこの二十世紀の巨人の魅力は、現代のわれわれをなお惹きつけてやまない。こうした中でバルト神学の核心に迫る研究が八谷俊久氏によって新たに加えられたことはまことに喜ばしい。

『逆説から歴史へ』と題された本書の内容は、次のような著者自身の解説によって最も簡潔に示されるであろう。「本書では、バルト神学全体をキリスト教真理へと向かつて絶えず途上にある『旅人の神学』として位置付け、初期の代表的な著作である『ロマ書』第二版（1922年）の『逆説のキリスト論』から起筆して、晩年の『教会教義学』IV『和解論』（1952年）における新しいキリスト論の構想に至るまでのキリスト論的な思惟の変貌の諸相を『逆説から歴史へ』の聖軌として辿った」（二六二頁）。

以下、付論等を除く目次の大項目を示しておく。

第一部「逆説」としての神の啓示の出来事…「逆説のキリス

ト論」の射程

第1章 「弁証法神学」の始まり…「逆説のキリスト論」の場所設定

第2章 「瞬間」と「逆説」…初期バルト神学の「危機モチーフ」における「逆説のキリスト論」

第二部 バルト神学の転換…「逆説のキリスト論」の限界

第3章 「逆説のキリスト論」の後退…『ロマ書』第二版から『教会教義学』へ

第4章 イエス・キリストにおいて自らを啓示する神…バルトの「啓示」理解

第三部 神と人間の和解の歴史としてのイエス・キリスト…新しいキリスト論の構想

第5章 「主」と「僕」としてのイエス・キリスト…バルトの和解論（1）

第6章 「神人」イエス・キリストにおける神と人間…バルトの和解論（2）

著者の企ての全体はこうした一覽によっても明らかであろう。

それ自身はほぼ常識に属する弁証法から類比への「転換」、あるいは『ロマ書』から『教会教義学』への転進と共に現れ出た新しいバルトを、著者はバルト神学の中核をなす「キリスト論」に即して明らかにしようとした。その際「転換」の内実を、キルケゴールの逆説弁証法との関わりを一つの軸として説明している。このことは本研究の特長であり、従来軽視されがちだった新カント学派との関係にもM・バイントカーらの諸研究を援用し言及するなど、広く深い精緻な分析は、まさに労作と言わざるをえない。

こうしたキリスト論の変貌という視点から見ることによって著者は、バルト神学の発展に関して従来あまりなされることのない区分を採用した。それは第二部バルト神学の転換…「逆説のキリスト論」の限界という括りで『教会教義学』の創造論までを扱うということである。著者にとって「神学活動の全体」の「3つの時期」の「区分」（二六頁）はたんに時間的区切りではない。

和解論のキリスト論は、したがって第三部で「新しいキリスト論の構想」として取り扱われる。狭義のキリスト論は完成した形で存在するので「構想」はむしろ「熟成」の意味であろうが、いずれにせよ本書はバルト神学全体へのキリスト論からの新たな展望をわれわれに与えてくれる。

内容に関して一つだけ申し上げれば、逆説から歴史への転換を、とくに本書第3章以下で広範に論証していて、それはそれとして説得的ではあるが、その根拠をなす「受肉」論そのものの分析は必ずしも十分でないように見える。バルトは古代のキリスト論の位格的統一（ウニオ・ヒュポスタティカ）を重視しており、そこを素通りすることはできないように思われるのだが、どうであろうか。今後著者がボンヘッファーやバルトをふまえて展開しようとしている「まねびの神学」の展開（第6章）に期待したいと思う（さとう・しろう「東北学院大学教授」）

（A5判・三六三頁・本体三六〇円＋税・新教出版社）



大崎節郎著作集

第五巻 カールバルト関連（全7巻）

大崎節郎
Setsuro Osaki



バルトがもたらした 神学への影響

初期バルトの神学、ボンヘッファーとのかかわりと影響、そして日本人神学者への影響を論じる。さらに改革派教会における信仰告白、教会論、聖餐、倫理学を扱った論文と講演を取録。

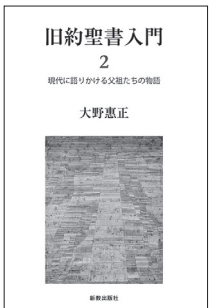
菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価【本体 7,000 + 税】円
ISBN978-4-86325-086-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

現代人への慰めと生きる希望
大野恵正著

旧約聖書入門2 現代に語りかける父祖たちの物語



小友 聡

大野恵正先生の『旧約聖書入門2』が刊行されました。2年前に出版された第一巻に続くものです。この第二巻の刊行を楽しみに待っておられた読者も多いことでしょう。著者、大野恵正先生は長崎の活水女子大学で教鞭を執られた著名な旧約学者です。大野先生を一言で紹介するとすれば、現在、諸教会で広く使用されている新共同訳聖書の旧約原典翻訳者と申し上げればよいでしょう。

本書は全5巻に及ぶ旧約聖書入門シリーズの第二巻で、「現代に語りかける父祖たちの物語」という副題がついています。先の第一巻は創世記11章までの原初史でしたが、本書は創世記12章〜50章までの族長物語を扱っています。23の項目に区分され、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてヨセフの物語を丁寧に解き明かすという仕方で書かれています。

族長物語について解説書や説教集は数多くありますが、本書はこれまでの解説書や説教集とは趣向が異なります。著者大野先生は、ヘブライ語の原語の鑿に深く分け入り、鋭い感性と信仰によって物語を見事に読み解きます。新共同訳の原典翻訳者

として聖書翻訳の重要性和限界を知り尽くしている著者が、単にヘブライ語を日本語に直訳しただけでは意味を説明しきれないぎりぎりのところで、信仰による読み解きの道案内をしてくれます。大野先生の古典語や文献学に関する深い洞察と文学的感性によって、二千数百年前に記された旧約聖書の族長物語が覆いを取り去られ、現代に向けて語りかける物語となるのです。「現代に語りかける父祖たちの物語」という副題には、なるほどと頷かせられます。本書は信徒向けの旧約聖書入門書ではありませんが、旧約聖書学の大家でなければ書くことができない「入門書」です。

本書では創世記22章の「アブラハムのイサク献供」ととりわけ多くの頁が割かれています。アケダーと呼ばれるこの物語については様々な解釈がされてきました。最近でも、神学的解釈のほか哲学的な解釈や論究もあります。それについて、著者は旧約学者としてこういうコメントをしています。「わたし自身の役割は、物語記者がこの物語を通して伝えんとすることを、物語記者が身を置いたに相違ない現実に沿って捉え、現代に生

きるわたし自身に語りかけてくるものを汲み取りつつ、この物語が語りかけてくるものを現代の読者に取り次ぐことにあります」(二八四頁)。アブラハムが遭遇した、説明しようのない不条理な「神の試み」を、著者は現代においても様々な現実合致すると説明をし、信仰的な読み取りを提示しています。読者は思わず引き込まれ、意味の深さに圧倒されて、信仰の世界に誘われます。

本書にはところどころ大野恵正先生ご自身の人生体験が出てきます。とりわけ先生が昭和一九年の東京大空襲でかろうじて生き残った体験は心に染み入ります。母親に「おしっこがしたい」とせがんで一緒に避難所の外に出たおかげで家族全員が焼死を免れたという偶然。それは、生き残ったというより、むしろ神から命を与えられた体験として、ソドム滅亡物語が発するメッセージに重ねられています。「それゆえに、わたしはその神の意思に添って生きたいし、生きなければならぬ」と思っ

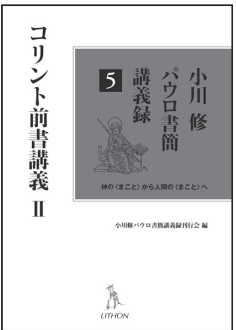
います」(二二八頁)。このメッセージは、破滅の危機に瀕している地球上のすべての被造物に届けられると著者は述べています。旧約聖書から現代人の慰めと生きる希望を読み取ろうとする姿勢に感動を覚えます。

本書は信徒向けに書かれていますから、族長物語の聖書研究の参考書としても活用できると思います。旧約聖書から信仰を深く学び取れる「旧約聖書入門」として多くの皆さんにお薦めします。これは今後も続くシリーズですから、第三巻も期待できます。

(おとも・さとし)東京神学大学教授、日本基督教団中村町教会牧師
(小B6・三六八頁・本体一九〇〇円＋税・新教出版社)



新刊



小川修パウロ 書簡講義録5 コリント前書講義II

小川修パウロ書簡講義録刊行会編
●A5判上製 四〇二頁 ●定価三二四〇円

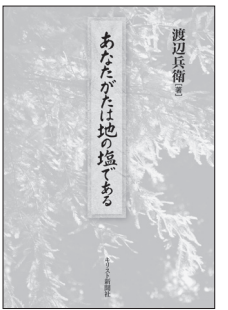
小川修先生が長年追い求め掴まれた福音理解は、同志社大学神学部大学院での三年間(二〇〇七〜一〇年)に亘るパウロ書簡講義に結実したと言っても過言ではない。ひとこと言えば、「神の(まこと)から人間の(まこと)へ」というパウロの福音理解であった。

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

共感の場から生まれ出た説教
渡辺兵衛著

あなたがたは地の塩である



関田寛雄

本書は日本基督教団八雲教会創立百周年を憶えて出版されている。毎月の礼拝説教の中から一篇を選び、A4一枚にまとめたものを集め、著者が農村伝道神学校在任中のもの三篇を加えた全四二篇の説教集である。永年の牧会経験の中で難病を経験しつつ「人と共感することを求めながら語ってきたように思う」（「あとがき」から）と振り返る著者である。それは著者の聖書の捉え方にも現われており、イエスについて、弟子について、パウロについて、その対象と「共感する」関わりの中で使信を聴き取るのである。そこには自由で生活的な表現が生まれ、教義的なものが生（なま）の形で語られる事が見られない。分かり易く、初心者が構えることなく近づける説教になっている。例えば、マルコ福音書からの説教で、福音書記事の解釈に入るに際し、マルコという著者の性格に注目し、「マルコは私たちとそれほど変わらない『普通の人』という感じがします」（「一頁」として、そこに共感の場を設定する。「そのように聖書の言葉を自分の身に引き寄せて、この私自身に語られている生きた言葉として聴きたいと思います」（「二三頁」。この姿勢の中

に著者の聖書へのアプローチの方法が示されていると言えよう。そういう観点から、幼子を選ける弟子たちに向かってイエスは「どなりつけました」（「一五頁」とか、「イエスはこのように『正しい者の神』を根底からひっくり返したのです」（「二四頁」とか、デナリオンというような言葉を避けて「私たちが（何万円分のパンを買って）食べさせるのですか」（「四四頁」という表現にしたり、ペンテコステの説教では「聖霊とは何か得体の知れないようなものではなく、人間に生きた言葉を語らせるという具体的な働きをもたらす神の力なのです」（「六〇頁」と、分り易い聖霊論を展開する。

特に印象深く読んだのは、「ゲツセマネで祈るイエス」の説教の中で、イエスの祈りの中に変化を認め、「アツバ、父よ、この苦しみを取りのけてください」と祈ったイエスが「祈り続けている間に、イエスの祈りの中身が次第に変えられていきました。……『私の願いでなく、御心が行われますように』と祈るようになったのです。これは大きな変化ですね。イエスは祈りに集中することによって、少しずつ心が安らぎ、恐れが和ら

いでいって、……それが神の御心によるものなら受け入れよう」との思いになっていったのでしょ」（「一〇二頁」。このような説教者の自由な想像力による、イエスとの共感の場をもつことは、神学者や聖書学者の出る幕ではないという事である。この説教にはまた教会の牧会的な諸事態が豊かに反映している。これも「共感の場」の展開に他ならない。ペンテコステに関連してヨエル書（三・一）が引用され、「しかし聖霊は、自由に、あらゆる人に働いて、老若男女のだけれも語り出すのです」（「六一頁」と語り、九九才のU.M.さん、九一才の役員O.S.さんが言及されている。「八雲教会がこの地にあつて高齢の人たちの希望の光となっていることは、とてもうれしいことです」（「六二頁」と結ばれている。また「耳が開かれ、心が開かれる」の説教でも教会員が補聴装置をつくり、「Oさんが説教を聴くことができるようになったことです。……教会のみんなが自分ごとのように喜んでいきます」（「五〇頁」。正に「エツファタ」

（開け）の福音の現実が示されている。

「難民として他国に寄留する」アブラハムはサラに「私の妹だと言ってほしい」という。そのサラが「飛び寄り美人の妻」（「二六頁」であったかどうか、誰が知るであろうか。本書の美しい題字も九三才の会員の書である。

（四六判・一八二頁・本体一四〇〇円＋税・キリスト新聞社）
（せきた・ひろお）日本基督教団神奈川教区巡回教師

お詫びと訂正
本誌2月号26頁「既刊案内」の5段目、八木俊久は八谷俊久の間違いでした。また同号25頁「本屋さんを選んだお勧めの本」の中で、二〇一一年に『塚本虎二訳 新約聖書』が新教出版社より刊行されていたことが記されていませんでした。お詫びして、お知らせします。

日本イエス・キリスト教団
明野キリスト教会教師

大頭真一 著

聖書は一年12回で聖書を読む本

※現場レポート追補！

聖書の物語があなたを招く 平野克己師（聖書学博士・神学博士）

◆大頭真一牧師が『聖書は物語る』に続けて、『聖書はさらに物語る』を刊行しました。この本の特徴は、「聖書に何が記されているか」という知識をいかに与えてくれるところにあります。……聖書全体を見通しながら、聖書への知識を私たちに提供してくれるのです。再版出来 ●A5判・二二二頁・一、二〇〇円＋税

聖書は物語る
一年12回で聖書を読む本

正木牧人師・評（神戸ルーテル神学校校長）
◆本書の読みやすさは聖書を一統きの物語として捕らえ、一貫する世界観を提示していることにある。（『本のひろば』評より）改訂3版出来！
A5判・112頁・1,100円＋税

好評既刊の本

渡辺善太著作選 新書判、1,800円＋税

① 偽善者を出す如く 偽善者は教会の必然的現象
② 現実教会の福音的認識、他
③ 聖書論——聖書正典論 1/1
④ 聖書論——聖書正典論 2/1
⑤ 聖書論——聖書正典論 3/1
⑥ わかって、わからないキリスト教

齋藤孝志著 新書判・各1,000円＋税
道・真理・命 全3巻完結！
ヨハネによる福音書に徹して聴く

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

アシジの聖フランシスコ伝記資料集



神崎忠昭

アシジのフランシスコ(一一八二頃―一二二六)は大きな器だ。人々はそのそれぞれの希望や怖れや未来を託する。それゆえに、さまざまにフランシスコ像が存在する。

若い頃、図書館で雑誌のバックナンバーを繰っていると、清貧と説教を説いたが教会への不従順ゆえに異端と断じられたワルド派はフランシスコ会の先駆者だとするフランシスコ会士の研究(Berard Malthaler, "Forerunners of the Franciscans: the Waldenses," *Franciscan Studies*, Vol. 18 (1958), pp. 133-142)を見つけ、同じ雑誌の七年後にその結論を全否定し、まったく論理にかなっていないとする論文(Felix M. Bak, "If it weren't for Peter Waldo, there would have been no Franciscans," *Franciscan Studies*, Vol. 25 (1965), pp. 4-16)に出会ったときは驚いた。異端を修道会の先行者とするのが許せなかったのだろう。フランシスコ像をめぐるのは、フランシスコの没後すぐから、同じように修道会のうちで激しい対立が生じた。フランシスコの理想の完全な実現を目指し全面的財産放棄を主張する者もいれば、組織運営のためにはある程度の

財産所有は認めざるを得ないとする者も少なくなかったのである。ウンベルト・エーコが『蕃薇の名前』(一九八〇年)で小説として描いた世界である。論争はさまざまに伝記に反映され、多くの像の彼方に「謎」としてのフランシスコがいる。

フランシスコ像の多様性はフランシスコ会内部に留まらないう。フランシスコほど愛される聖人は少ないのだ。彼を描いた映画ではもつとも有名であろうゼイレリリの『ブラザー・サン・シスター・ムーン』(一九七二年)は彼の青春時代をベトナム反戦的なヒッピー運動のように表現し、インノケンティウス三世の幻視で閉じるが、ロッセリーニの『神の道化師、フランチェスコ』(一九五〇年)は教皇の認可を得たのちのフランシスコとその弟子たちの姿を、『聖フランシスコの小キリスト』に基づいて、子どものような純真さとともに、理想の実現に悩む人々として描いている。その差は驚くほどだ。このような多様さについては、たとえば Cyprian J. Lynch, O.F.M. (ed.), *A Poor Man's Legacy: An Anthology of Franciscan Poverty* (the Franciscan Institute of St. Bonaventure University,

1988)を読むならば、どれほど多くの人々がフランシスコを真摯に仰ぎ見てきたかが分かる。それぞれの思いは「フランシスコとは誰か」という問いにつながっている。

本書は、その問いに答えるのに必須な8編の伝記および回状1編と勅書1編の翻訳を収録したものである。少々古いが、手許にあるイタリア語翻訳資料集 *Fonti Francescane*, 3^a edizione (Padova, 1983)と比べても、最初期の主な伝記が網羅されている。これら伝記8編のうち5編は既訳の再録であるが、それらの翻訳は現在では入手が難しくなっている。また既訳であっても、手を入れているため、文章はどれもこなれており、読みやすい。ただ導入部が手薄く、最小限の解題を付しただけというのが惜しまれる。だがフランシスコ自身の著作、たとえば『会則』『遺言』『書簡』『祈り』なども刊行予定と聞く。フランシスコの生涯や息吹に親しむに不可欠のものとなるだろう。二〇一三年に選出されるや、新教皇はフランシスコと名乗り、

貧しい人々の味方、平和の使徒たらんとした。アシジのフランシスコの理想が現代においても人々を惹きつけ、今も活き続けていることの証拠であろう。現代は、この伝記資料集に描かれた姿を通じて、どのような希望や怖れや未来をフランシスコに託するのだろうか。

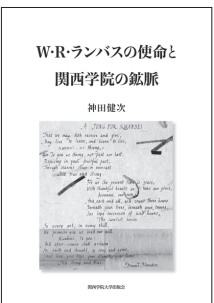
(かんざき・ただあき)慶應義塾大学文学部教授
(A5判・八二〇頁・本体七八〇〇円+税・教文館)

関西学院大学出版会

W・R・ランバスの使命と

関西学院の鉞脈

神田健次著

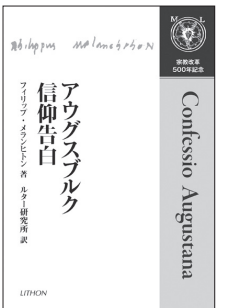


関西学院の創設者W・R・ランバスの使命とその足跡。キリスト教教育の歴史の諸断面をめぐる。A5 本体価格2500円(税抜)

〒662-0891 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL0798-53-7002 FAX0798-53-9592
http://www.kgup.jp/

メランヒトンとルター
メランヒトン著
ルター研究所訳

アウグスブルク信仰告白



竹原創一

本書の著者がルターでなくメランヒトンであることの意味をあらためて考えさせられた。

「アウグスブルク信仰告白」は、一五三〇年六月二五日、アウグスブルク帝国議会に提出されたルター派の信条書である。当時オスマン・トルコがヨーロッパへ攻め入る中で、神聖ローマ皇帝カール五世はキリスト教諸勢力の統合のために、各教派の信条を帝国議会に提出させ、調停を図ろうとした。ルター派の信条書をメランヒトンが起草した。他のルター派の神学者たち（ヨナス、アグリコラ、シュパラティン）およびルター自身も直接・間接に協議に加わった。信条書を帝国議会へ提出する主体は、これら神学者ではなく、ザクセン選帝侯らルター派の領主たちであった。ルター自身は一五二二年五月に発令された帝国追放刑のために、ザクセン領地外へ出ることができず、帝国議会の会期中、領地内でアウグスブルクに最も近いコーブルク城に待機していた。

このような状況下で彼らが信条書の作成にどのようなにかかわったかが、当時互いに交わされた書簡から知られる。そこから

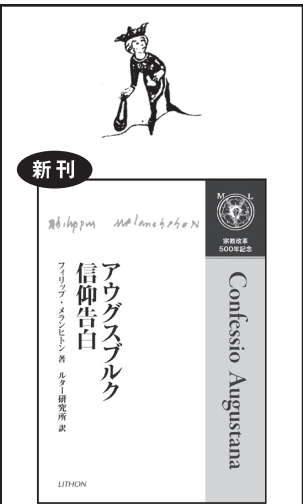
は、信条書作成にあたってルターとメランヒトンの間の意思疎通が必ずしもスムーズでなかったことがうかがわれる。当時アウグスブルクからコーブルクへ書簡が届くのに数日を要し、時には書簡が滞って数通が束になって届くなど、行き違いが嘆かれている。とくにルターにとって肝心の信条書の条文が十分伝達されず、くり返し催促している。五月一日付け書簡で、メランヒトンから条文の原案がルターへ届けられて以後、六月二五日に議会で条文が読み上げられるまで、ルターに条文の最終案は伝達されなかった。六月二六日付け書簡で、ようやくルターに条文が伝達され、またこの間の沈黙の弁解がなされている。たしかにルターは五月に伝達された原案について、「その条文がわたしの気に入ること、修正すべき点はないこと、自分はメランヒトンのように穏やかに信条を表明できないこと」を、五月一日付けザクセン侯宛書簡で述べているが、同日付けのメランヒトン宛の書簡ではこの称賛が述べられていないのはなぜか。

結局ルターはメランヒトンの譲歩的な書き方に賛同できな

ったようである。ローマ教会に対するルターの重要な批判点であった「化体説」と「教皇制」についての条文は外されていた。ルターにとって中心的教えである信仰義認論についてはきわめて簡潔に述べられ（第四条）、よい行為を信仰の目的として説明する（第二〇条）など、ルターの教えと異なるとは言えないが、強調点にずれがあった。教派間の調停が意図された信条の提示において、メランヒトンの表現は譲歩的であらざるをえなかった。六月二九日付けのルターからメランヒトン宛の書簡で、「わがフイリップ（メランヒトン）よ、わたしはあなた方の条文を受け取った。そしてあなたが教皇派に何をどれだけ譲歩すべきかを問うているのを訝しく思う」と述べている。この世の権力者にこの世の事柄で譲歩することはあっても、教皇派に信仰の事柄で一步も譲ってはならないことを強調している。メランヒトンはルターの真意を十分理解した上で、皇帝臨席の帝国議会で読み上げられるにふさわしい条文とするために、

第一六条で示されるような譲歩を示す。すでにルターとエラスムスの間で（一五二五年）、またルターとツヴィングリの間で（一五二九年）、対話が決裂したことを知っているメランヒトンは、帝国議会での信条の提示に際し、ルターが前面に立つことを抑えたのではないか。そして実際メランヒトンの努力の甲斐あって、ルター派の信条がはじめて公の場で表明され、そのこと自体はルターにとっても必要であり喜びであった。ルターはその後聖書に集中し、ますます信条への確信が深められていくのに対し、メランヒトンは神学と権力者への対応の間で苦慮する。このようにタイプの異なる二人であったが、交わされる書簡から、揺るがぬ信頼関係が感じられる。ルター派の成立と存続のためにそれぞれがかけがえない役割を果たしていたことが、本書とそれを取り巻く書簡から理解される。

（たけはら・そういち 立教大学名誉教授）
（B6判・二二九頁・本体一〇〇〇円＋税・リトン）



アウグスブルク信仰告白

メランヒトン著 ● ルター研究所訳
● B6判並製 ● 定価：1000円＋税

日本福音ルーテル教会
宗教改革500年記念事業
推奨図書

宗教改革期には、ルター派、改革派、急進派は次々に信仰告白文書を明らかにしたが、本書はそうした信仰告白文書の最初のものであって、ルター派の信仰表明の根本的地位を占め、ルター派教会のアイデンティティーを規定している。解説では、本書成立の背景と現代社会での意義について述べる。

ISBN978-4-86376-046-2

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

本屋さんを選んだ お勧めの本

北九州キリスト教ブックセンター 芝間丈弥

『境界線』
ヘンリー・クラウド他著



2,400円+税
地引網出版

境界線とは？

「私たちが神が持つておられるような境界線を築く必要があるのです」

「境界線を引くのに最も基本的な言葉は『いいえ』『ノー』です。この言葉はあなたが他者から分離した存在であり、あなたを管理するのはあなたであることを発信します。『いいえ』ということに関して（または『はい』ということに関して）明確であることは、聖書全体を通して流れているテーマでもあります」

「良い境界線は自己中心を促進するものではない……むしろ、境界線は、愛、恵み、責任、自由、そして自制において私たちの成長の助けとなるのです。皆

さんが神の愛のなかであなたと共に成熟していききたいという同じ願いを持つ人たちを見つけたことができそうです。よう祈っています」以上 本文より
わたしたちが言うべき「はい」と「いいえ」を適切に言えるよう、聖書を通して助け、教えてくれる、そんな本です。一読をお勧めいたします。

北九州キリスト教ブックセンター

〒802-0022 北九州市小倉北区上富野5-2-18

TEL: 093-967-0321 (FAX同)

Email: kbbookcenter@bible.or.jp

聖公書店 村上信児

『カエサルくんと
本のおはなし』

いけがみしゅんいち著
せきぐちよしみイラスト



1,200円+税
福音館書店

専門課程で習うような分野の知識までもがさりげなく提示されており、大人にとってもとても勉強になる内容です。これを読んだ子供たちが将来勉強して行く中で、「あつ、これ知ってる！」なんて思い出してくれるかもしれない、そんなことを期待してしまっています。
同じ作者コンビによる「カエサルくんとカレンダー」も同様にお勧めですので、是非どうぞ。

聖公書店

〒350-1331 埼玉県狭山市新狭山1-5-1

TEL: 04-2900-2771

FAX: 04-2900-2722

Email: murakami-ac@bible.or.jp

「本」というものは私たちにとって極めて身近で馴染み深いものです。ですが、それが現在のような読みやすく扱いやすい冊子状の形態になるまでには、実は長い歴史がありました。この絵本はカエサルくん（有名なあのカエサルです）がそれを子供にもわかるように解説してくれるという趣向です。

子供向けの体裁ではありませんが、カエサルやグーテンベルクなどの歴史上の人物と共に世界史や、写本学といった

キリスト教書総目録 2016年版

バツハとマザー・テレサ

巻頭エッセイ 徳善義和氏 片柳弘史氏



内容

総記・年鑑 辞事典 図説年表／全集(著作集) 叢書講座／聖書／聖書学／神学／宗教学 思想倫理／伝記／ライタシオン／信仰／入門書 人生論 説教集／文学小説 評論エッセイ 詩劇／音楽 美術 建築 教育保育 心理 社会福祉／児童 絵本 讃美歌 式文／DVD CD カセット レデオ／キリスト教関連雑誌・新聞 書名索引／著者索引／掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送料250円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会

事務局 〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

■新教出版社
教会と戦争

2013年に亡くなった著者の遺稿から、戦時下の牧師家庭に育った戦争体験、教会の戦争責任、社会への証し、また礼拝のあり方など、著者の信仰のエッセンスを表す文章を集成。

四六判・430頁・予価2500円

川端純四郎著

■日本キリスト教団出版局

死者の復活 神学的・科学的論考集

T・ピーターズ、R・J・ラッセル、

M・ヴェルカー編／小河陽訳

キリスト教信仰の根幹である「死者の復活」。神学、宗教学、自然科学、工学など、多彩な学問領域の研究者18名が考究。科学が予告する宇宙の終末と神学的終末論の関係、体の復活の可能性、「同一人格の復活」の定義など、キリスト教神学と自然科学とを対話させる創造的相互交流。

A5判・442頁・本体5600円

新約聖書解釈の手引き

浅野淳博／伊東寿泰／須藤伊知郎／辻学

中野実／廣石望／前川裕／村山由美著

聖書は、汲めどもつきぬ恵みを湛えている。それゆえ聖書学者は、聖書を読むための多様な方法を提案してきた。初学者向けにその各種の方法を概説すると共に、それを用いて聖書を読むと「何がわかるか」を紹介。「新約聖書をさらに深く読みたい」と願う人の必携書。

A5判・338頁・本体3200円

INFORMATION

近刊情報

■教文館

砂漠に引きこもった人々

——キリスト教聖人伝選集

戸田 聡編訳

アントニオスやマカリオスなど4世紀に砂漠で隠遁生活を送った「最初の修道者たち」の生涯を、ヒエロニムス、アタナシオスらが描いた伝記5作品収録。キリスト教の豊かな精神性を汲み取る源泉！

A5判・280頁・本体3500円

イエスは何語を話したか？ (仮)

土岐健治著

イエス時代のパレスチナの一般的な言語状況を、諸資料から掘り起こし考究した記念碑的著作、待望の新装復刊！ 新約聖書本文批評学に関する最新のエッセイを付論として所収。

四六判・192頁・本体2200円

■キリスト新聞社

キリスト教年鑑2016

——キリスト新聞社創業70年記念版

キリスト教年鑑編集委員会編著

戦後70年を迎えた日本における教会の取り組みと動向を調査するため、全国の教職・信徒向けに実施した「戦後70年教会アンケート」の結果を付す。

B5判・1306頁・本体一五〇〇〇円

| 書店名 | 郵便番号 | 住所 | 電話 | ファックス | URL | メール | 郵便振替 |
|-----------------|----------|------------------------------|--------------|--------------|---|--|----------------|
| 北海道キリスト教書店 | 060-0807 | 札幌市北区北七条西6丁目 | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jb-shop.com | sasaki@jb-shop.com | 02770-2-56520 |
| 善隣館書店 | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37 | 019-654-1216 | 共用 | http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/ | zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp | 02350-0-874 |
| 仙台キリスト教書店 | 980-0012 | 仙台市青葉区御1-13-6 東北教区センター・エマof | 022-223-2736 | 共用 | | fqcwk524@ybb.ne.jp | 02230-0-31152 |
| 恵泉書房 | 260-0021 | 千葉市中央区新館2-8-2 千葉クリスチャンセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | | keisen@vesta.ocn.ne.jp | 00120-9-43619 |
| 教文館 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp | xbooks@kyobunkwan.co.jp | 00120-2-11357 |
| 聖公書店 | 350-1331 | 埼玉県狭山市新狭山1-5-1 | 042-900-2771 | 042-900-2722 | | seikoshoten@bible.or.jp | |
| アバコ・ブックセンター | 169-0051 | 東京都新宿区西早稲田2-3-18 | 03-3203-4121 | 03-3203-4186 | http://www.avaco.info | avaco@avaco.info | 00130-0-96398 |
| 待晨堂 | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1 | 03-3333-5778 | 03-3333-6378 | http://taishindo-books.jimdo.com/ | taishindo@jcom.home.ne.jp | 00110-8-95827 |
| キリスト教書店ハンナ | 162-0814 | 東京都新宿区新小川町9-1 | 03-3269-4490 | 03-3269-4491 | | kirisutokyoushotenhanna@ybb.ne.jp | 00150-9-595509 |
| バイブルハウス南青山 | 107-0062 | 東京都港区南青山5-10-2 | 03-6418-5230 | 03-6418-5231 | | biblehouse@bible.or.jp | |
| 横浜キリスト教書店 | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96 | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www7.biglobe.ne.jp/~yokohama-cts/index.html | sksch@mva.biglobe.ne.jp | 00250-4-2512 |
| 清光書店 | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313 | 025-229-0656 | 共用 | | | 00560-8-51419 |
| 静岡聖文舎 | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26 | 054-260-6644 | 054-260-5612 | | info@s-seibun.co.jp | 00810-8-26558 |
| 名古屋聖文舎 | 464-0850 | 名古屋市千種区今池5-28-4 | 052-741-2416 | 052-733-2648 | http://homepage3.nifty.com/seibunsha/ | nagoya-seibunsha@nifty.com | 00810-5-14073 |
| 京都ヨルダン社 | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル | 075-211-6675 | 075-211-2834 | | ktjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp | 01010-2-594 |
| 大阪キリスト教書店 | 530-0002 | 大阪市北区曾根崎新地2-1-15 | 06-6345-2928 | 06-6345-2187 | http://osakacbs.web.fc2.com/ | ochrbook@river.ocn.ne.jp | 00990-3-43009 |
| バイブルハウスびぶろすの森 | 591-8041 | 堺市北区東雲東町1-1-16 | | | | sakai-jbs@bible.or.jp | 00960-9-47426 |
| 神戸キリスト教書店 | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F | 078-331-7569 | 078-331-9933 | | | 01150-7-45120 |
| 広島聖文舎 | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7 | 082-208-0022 | 082-208-0177 | | hseibun0951@yahoo.co.jp | 01360-4-1958 |
| 徳島キリスト教書店 | 770-0052 | 徳島市中島田町3-57-1 | 088-633-6335 | 共用 | http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/ | tokushoten@shirt.ocn.ne.jp | 01630-5-37119 |
| 松山キリスト教書店 | 790-0804 | 松山市中一万町1-23 | 089-921-5519 | 089-921-5413 | | sksch@dokidoki.ne.jp | 01650-1-2120 |
| 北九州キリスト教ブックセンター | 802-0022 | 北九州小倉北区上富野5-2-18 | 093-967-0321 | 共用 | http://kcbook.net./ | kcbookcenter@ybb.ne.jp | 01780-4-39965 |
| 新生館 | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7 | 092-712-6123 | 092-781-5484 | | | 01750-5-10932 |
| キリスト教書店ハレルヤ | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23 | 096-372-3503 | 共用 | | | 017304-45044 |
| 沖縄キリスト教書店 | 903-0207 | 中頭郡西原町字翁長777 沖縄キリスト教学院内 | | | http://www.okinawacbs.com/ | okinawacbs@yahoo.co.jp | 020308-1283 |

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2016年3月号

特集 聖書と暴力、そして平和

寄稿者 石川立、志村真、渡邊さゆり、松浦薫、河野克也、矢口洋生

新連載 新約釈義 第一テモテ書

辻学

好評連載

聖書とわたし（川本隆史）、レヴィナスの時間論（内田樹）、ことばの履歴書（佐藤優）、南島キリスト教史入門（一色哲）、詩篇の思想と信仰（月本昭男）、キリスト教美術案内（八木美穂子）、消しゴム点描（望月麻生）他

編集者として校正作業に携わる際に、常住脳裏の一隅を占める句がある。「校正するべし」との周知のアフォリズムである。古今の作家・編集者の誤植に纏わる随筆を集めた『増補版誤植読本』（ちくま文庫）は滅法愉快なアンソロジーであるが、まるで聖句か信条のごとく、其処彼処にこの言葉が頻出するのが面白い。元来は『論語』子罕篇を出典とする「後生畏るべし」（若者には無限の可能性があるのでから畏敬すべきだ）の駄洒落であるが、本歌に負けず人口に膾炙している感がある。いつ頃の造語かと遡れば、桜痴の号で知られる明治の奇才福地源一郎による『懐往事談』（一八九四年）での記述に辿り着く。新聞記者の福地は、校正の拙劣さに腹が立ち、校正担当者が居並ぶ席の壁に「校正可畏」と貼り紙して警告したという。かの内村鑑三も「雑誌校正にて全日を費やした。校正恐るべしである」と日記で呻吟している（一九一八年二月四日）。

一世紀も前から連綿と同じ労苦が存続する現実に妙な安堵を

編集室から

編集者として校正作業に携わる際に、常住脳裏の一隅を占める句がある。「校正するべし」との周知のアフォリズムである。古今の作家・編集者の誤植に纏わる随筆を集めた『増補版誤植読本』（ちくま文庫）は滅法愉快なアンソロジーであるが、まるで聖句か信条のごとく、其処彼処にこの言葉が頻出するのが面白い。元来は『論語』子罕篇を出典とする「後生畏るべし」（若者には無限の可能性があるのでから畏敬すべきだ）の駄洒落であるが、本歌に負けず人口に膾炙している感がある。いつ頃の造語かと遡れば、桜痴の号で知られる明治の奇才福地源一郎による『懐往事談』（一八九四年）での記述に辿り着く。新聞記者の福地は、校正の拙劣さに腹が立ち、校正担当者が居並ぶ席の壁に「校正可畏」と貼り紙して警告したという。かの内村鑑三も「雑誌校正にて全日を費やした。校正恐るべしである」と日記で呻吟している（一九一八年二月四日）。

A5判・本体 588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

覚える一方、手書きで原稿がしたためられ、手作業で活字が拾われていた時代は、現在より文字への配慮が厚かったのではと愚考する。情報発信が万人に解放され文字量過多の昨今、ネットニュースやブログの類に誤記を発見せぬ日はないし、校正抜きで出版される刊行物・電子書籍はどこかに穴があるもの。間違ひ探しは職業病だが、即座に消えゆくテロップ中の誤記までテレビに向かい指摘する癖は滑稽の極みと自嘲するほかない。されど恐ろしきは誤植。薬品の用量に誤記あらば事故や健康被害が生まれ、法令に誤記あらば無辜の民が罪人となる。notの脱落で「姦淫するなかれ」（出二〇・一四）を「姦淫せよ」とした一七世紀の「邪悪聖書」の印刷者は獄死したとか。

校正は時に空虚で、万という誤字脱字桁字を修正できたとて、ゼロに漸近させるのみで、プラスにはできない。また、してはいけない。先の福地の書も「己れが聊かばかりの文学に誇りて妄りに訂正を加へ、却つて原稿の意を害するに至る」のは最低と説く。分をわきまえ、原稿への忠実を貫くのが使命である。文字のゲシユタルト崩壊と格闘しつつ本日も校正に勤しむ。

本稿にも誤字を潜ませておいたがお気づきだろうか。（高橋）

本のひろば 2016年4月号 予告

巻頭エッセイ・朝岡勝 本・批評と紹介・J・S・スポング著『信じない人のためのイエス入門』、ヘボン／ブラウン他著『元始に言霊あり』、『小川修パウロ書簡講義録9』前期論文集、遠藤徹著『尊びの愛』としてのアガペー』、A・E・マクケラス著『ルターの十字架の神学』、關岡一成著『海老名弾正』、小高毅著『靈性神学入門』ほか

宗教改革を先導した
一大神学者！



キリスト教古典叢書
エラスムス 金子晴勇訳
● A5判・704頁・本体6,800円

人文主義者エラスムスは、信仰の復興を目指した神学者でもあった。『エンキリデイオン』『新約聖書の序文』『真の神学方法論』ほか重要な神学的文書を収録。

キリスト教古典叢書
エラスムス神学著作集

好評既刊

J・ゴンサレス 鈴木浩訳
『キリスト教神学基本用語集』
● A5判・322頁・本体2,800円



神はいつ、どこから来たの？ イエスは神なの？ それとも人なの？ 本当に復活したの？ 悪が氾濫する時代に、神はどこにいるの？ 現代人が抱く疑問に、神学・聖書学の第一人者がお答えします！

● A5判・236頁・本体2,800円

だれもが知りたい
キリスト教神学Q&A
G・M・バーグ／D・ラウバー編 本多峰子訳

救済史と終末論

組織神学の根本問題3

近藤勝彦

● A5判・474頁・本体6,200円



著者が構想する組織神学的教義学の最終巻。救済の決定的な転換点であるイエス・キリストにおける贖罪の出来事と、それに基づく希望の終末論を扱う。

闇の勢力に抗して

内坂晃

● B6判・480頁・本体3,000円

あらゆるものの偶像化に反対し、権力の相対化とそこに潜む闇の勢力に抗する生き方を薦めながら、時事問題や政治問題などを通して聖書の真理を語る。

雪に閉ざされて 冬の田園詩

初の邦訳

ジョン・グリーンリーフ・ホイットティア著／根本泉訳

2月下旬

奴隷解放運動に挺身したクエーカー詩人ホイットティア。アメリカ人に広く愛唱され、また内村鑑三が特に愛したことで知られる長詩。原文を付す。

◆四六判・本体1700円

インクルーシブ神学への道

鈴木文治著 開かれた教会のために

好評発売中

障害児教育の中でインクルーシブと出会い、教育や牧会の現場でその実践に取り組んできた著者が綴る、開かれた教会のための自伝的な思想記録。

◆四六判・本体2000円

戒規か対話か

【新教コイノニア31】

好評発売中

聖餐をめぐる日本基督教団への問いかけ

北村慈郎牧師の処分撤回を求め、ひらかれた合同教会をつくる会編

北村牧師は洗礼を受けていない者への配餐を行ったゆえに戒規に処され、牧師職を逐われた。このことを憂う40名の信徒・牧師たちが、それぞれの視点からこの事件の神学的・教会政治的意味を考察した論考および座談を収録。

◆A5判・本体1600円

日本のプロテスタントイイズムの政治思想

柳父圀近著 無教会における国家と宗教

好評発売中

内村・南原・矢内原・大塚らは近代日本における国家形成と国民形成の課題を通じて「テーマ」としての国家と宗教を鋭く意識していた。彼ら無教会派知識人における「ネイション」と「ステイト」のクリティカルな関係に迫った意欲的研究。

◆四六判・本体3800円

暗い森を抜けて

【つのぶえ文庫】

好評発売中

神曲ものがたり ダンテ原作／住谷真文／高秀泉絵

魂の遍歴を描くあの古典を子ども向けにやさしく再話する。

◆小B6・本体1300円

13歳にもわかるキリスト教

関西学院大学神学部監修
キリスト教スタディーブック・シリーズ4

美濃部信著

中1用のオールインワン・フルカラー教科書

◆A5判・本体900円

本心のほろは 一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇〇六年三月一日発行（毎月一回一日発行）
二〇〇六年三月二二〇〇六年三月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三一二三六〇一五二〇 振替〇〇一七〇一五一一一六七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三一二三六〇一五六七〇

定価七八円（税抜七二円）（〒62円）
一年分一三〇〇円（送料共）